

おいでん・さんそんSHOW

7月号
2019.07.01発行

はじめての山仕事ガイドブック出版

森林と関わり、豊かな暮らしを見出すための入門書



はじめての山仕事ガイドブックの発行に関わってきた(一社)おいでん・さんそん森林部会のメンバー

この度、一般社団法人おいでん・さんそんの「森林部会」は、森林に関わることに豊かな暮らしを見いだそうとする人のための入門書『はじめての山仕事ガイドブック』を森のめぐみを受けながら、地域の森をよみがえらせようとして出版しました。市域の7割を占める森林に真正面から向き合う人を増やそうと、森林部会メンバーが3年間かけ取材、編集に携わりました。森林部会は、おいでん・さんそんセンターに所属する6つの専門部会の一つです。センタースタッフ以外に地域住民、NPOなど活動団体、森林組合職員、行政、専門家など多様なメンバー12名で構成。2014年に発足して以来、健全な森とともにある豊かな地域社会の実現に向けた研究、実践を行っています。制作に至ったきっかけは、2016年3月の定例会議のなかで、「森林の専門チームとして培ってきた知見やネットワークを生かして、素人が山に向きあう方法を紹介するガイドブックができないか」というメンバーからの発案でした。単なるノウハウ本にならないよう、また人工林に関わる仕事に限らず森との関わり方を広く伝えようと盛り上がり、企画が



2016、2017年度に発行したパンフレット

一気にスタートしました。それから、毎月の編集会議で構成の検討、原稿の校正を重ね、2016・2017年度には、持ち山のある人、ない人向けに「人工林に関わる山仕事」を主な内容としたパンフレットを発行。2018年度に「天然林・竹林に関わる山仕事」などを補充し、集大成した冊子にまとめ上げました。内容は、市内を中心に積極的に自然や林業に関わる32人を取り。森林組合や民間の林業会社での働き方、専業林業家や自伐山主都市に住みながら森に関わる森林ボランティア、森林整備と地域経済の活性化を図る木の駅プロジェクトに取り組みむ人などの体験談を紹介しています。そして、原木シイタケを生産する若手農家、国産メンマを作るために竹林整備をするグループ、有害鳥獣駆除に奮闘する女性猟師、山菜収穫やヘボなど、幅広く森の魅力を伝えていきます。

「どう生きる?人生100年時代」をテーマに男女共同参画全国都市会議inとよたが開催された。主催者サイドの二員としての参画であったが、自身の人生やセ

ンター運営のあり方を左右するほどの多くの学びを得ることができた全国会議となった。働き方改革で名高いサイボウズ株式会社あおのちむぎの青野慶久さんの記

念講演は、会議全体に大きなインパクトを与えたと思う。コンピュータソフトの業界では、離職率の高さが課題となっていた。働く時間、在宅勤務、子連れ出勤、副業など多様な働き方を認めたことが離職者を激減させたばかりか業績を飛躍的に伸ばす結果にもつながったというのである。「ワガママ」を悪として封印するのはなく「自分はこうありたい」という意思を認めることから生

vol.56 「ワガママ」に生きていい



まれるモチベーションこそ成果の源泉になる。そして、いろんな形をしている石をうまく組み合わせた方が強い石垣ができるように一人ひとり異なる個性を強みとして生かし、チームプレイをすることで成果も生まれるという話であった。教育、仕事、老後という人生は、長く続いた成長時代のステレオタイプに過ぎない。「人生100年時代」、人は自分

が存在する意味を都度自問しながら選択し、性別、年齢障がい、国籍などともちろんどう生きたいかという「ワガママ」も含め「個性」と捉え、人の数だけある個性を認め合い、活かす。これができる、すべての人は幸せであり、誰ひとり取り残さない持続可能な幸せな社会は実現できるように思う。高齢を個性として活かす、もうひと踏ん張りしよう。

イベント情報

レーザーカッターで遊ぼう!

旭地区の旧築羽小を活用した施設つくラッセルの2階には、レーザーカッターがあります。様々な素材に刻印やカットができるレーザーカッター。どんな機械なの?何ができるの?興味はあるけどよくわからない、という声にお応えして、『お試しワークショップ』を開催します。

- 内容
まずは、電工室にあるサンプルを見ていただき、レーザーカッターについて知っていただきます。その後、キーホルダー、ペンスタンド、定規、イヤリング、ペンダント、スマホスタンドなどの中から選んで作ることができます。材料は、とても良い香りのする旭の間伐材・ヒノキ板を使用します。
- 日時 | ①7月11日(木) 10:00~11:00 ②7月16日(火) 10:00~11:00 ③7月29日(月) 13:00~14:00
- 場所 | つくらッセル(豊田市旭八幡町堂山432番地3)
- 参加費 | 500円/人(材料費別途300円~)
- 定員 | 各回5組
- 申込・問合せ | つくらッセル TEL 0565-77-2722(代表)または、0565-77-7648(戸田新聞店) FAX 050-3488-9128 mail: info@tukurassell.life

豊田小原和紙「初めての絵すき」講座 参加者募集!

豊田小原和紙工芸は、染色した和紙原料繊維を流し入れながら、絵画を制作するのでも、豊田市で生まれた伝統と新しい芸術表現が特徴の美術工芸です。講座では、初心者の方を対象に、豊田小原和紙工芸の基礎を工芸作家から学びます。F6号(約32×41cm)作品を1点制作し、完成品を一定期間展示します。

- カリキュラム | 講習時間午前10時~午後3時
- 第1回8月31日(土)『和紙原料づくり』/第2回9月7日(土)『作品下絵と絵すきの方法』/第3回9月14日(土)『作品づくり』/第4回9月21日(土)『作品づくり』/第5回9月28日(土)『作品づくり』/第6回10月5日(土)『裏打ちと講評』※第1回、2回は、和紙、絵すきの大事な話をします。
- 会場 | 和紙のふるさと和紙工芸館
- 募集対象 | 6人(応募者多数の場合は、抽選)
- 対象者 | 豊田小原和紙工芸に興味があり、「絵すき」初心者の方
- 受講料 | 8,000円(材料費込)
- 注意事項 | ・開講後には、受講料を返金することはできません・スケジュール、カリキュラムは予告なく変更することがあります・受講料には材料費を含みますが、和紙工芸館にない特殊なものは参加者負担でご用意ください・展示用の額は主催者が用意します
- 講師 | 安藤真人(豊田市小原和紙工芸会員)
- 申込・問合せ | 氏名、ふりがな、郵便番号、住所、電話番号、FAX番号、E-mailアドレスを、7月28日(日)までに次のいずれかの方法で提出ください。①郵送(〒470-0562豊田市永太郎町洞216-1)、FAX(0565-656-1001)、E-mail(washinohurusato@city.toyota.aichi.jp)で、和紙のふるさと宛てに送付②展示館受付に直接持参

REPORT



「目からウロコの片付け術」 講座開催



空き家片付け大作戦から着想を得て実施



第1部に21名、2部に10名が参加した

5/24(金)、「目からウロコの片付け術～物の整理は心の整理～」を豊田市里山くらし体験館すげの里で行いました。これまでおいでん・さんそんセンターが協力してきた3回の空き家片付け大作戦では、毎回大量の物が搬出されました。

なぜ人はたくさんの物に囲まれて暮らしているのか。たくさんの物を持たない生活にシフトすれば、後で大量な物の片付けに追われることもないだろう、そう思い片付け術の講座を開催することになりました。

講師は日本一になったご経験のある整理収納アドバイザーのこうだよしえ香田佳江先生。第1部の基本講座には、21名が参加。片付けないことで多くの不都合があることについて、実際の作業面・心理面から説明がありました。

まず何より自分の現状を把握すること、持てる量には限界があり、物を購入するときには、捨てる時のことまで考えることなど、片付けのスイッチが入るようなお話がありました。

二部には10名が参加し、自分のタイプを知るというワークを行いました。それぞれの個性が違うように、片付けの向かい方も違います。先生からのアドバイスを受けながら、自分を見つめる時間になりました。

講師から具体的なアドバイスをもらい、個人個人に合った片付けの糸口が見えたように思います。今後も空き家片付けと並行し、家に物が増えないための研究を進めていきたいと思います。(小黒敦子)

REPORT



「はぎの森の健康診断」開催



萩野学区住民、森林ボランティア、大学生など80名が参加



開会式には、地元市議会議員や支所長も激励にかけつけてくれました

6月8日(土)、1週間前に国家的行事の全国植樹祭が開催された愛知県で、草の根の活動「はぎの森の健康診断」が開催されました。

「森の健康診断」は、2000年の東海豪雨で山崩れが相次いだのをきっかけに、人工林の状態を明らかにしようと、2005年からボランティア団体を中心に豊田市で始められ、幅広い市民が森の大切さや現状を、正しく理解する活動として全国に広がっています。

早朝から集まった参加者は、地元足助地区萩野学区の住民や森林ボランティア、東京大学、名古屋大学、日本福祉大学の学生など総勢80名。センターは、実行委員の一員として参加者募集などのお手伝いをしました。

10チームに分かれ20ポイントの人工林調査を無事終えた後の「振り返りの会」で、建築学を学ぶ学生の「これまで、製品としてしか見てこなかった木材が、長い年月と山主の大変な苦勞の結果として

生み出された命の財産であることに気づいた。大切に使っていきたい。」という発言が強く印象に残りました。

今日の調査結果は、科学的に分析され、10月26日(土)に開催される報告会で発表されます。(鈴木辰吉)



調査範囲の植生は正しく記録されます



樹高の測定は2通りの方法で行い、信頼度の高い数値を採用

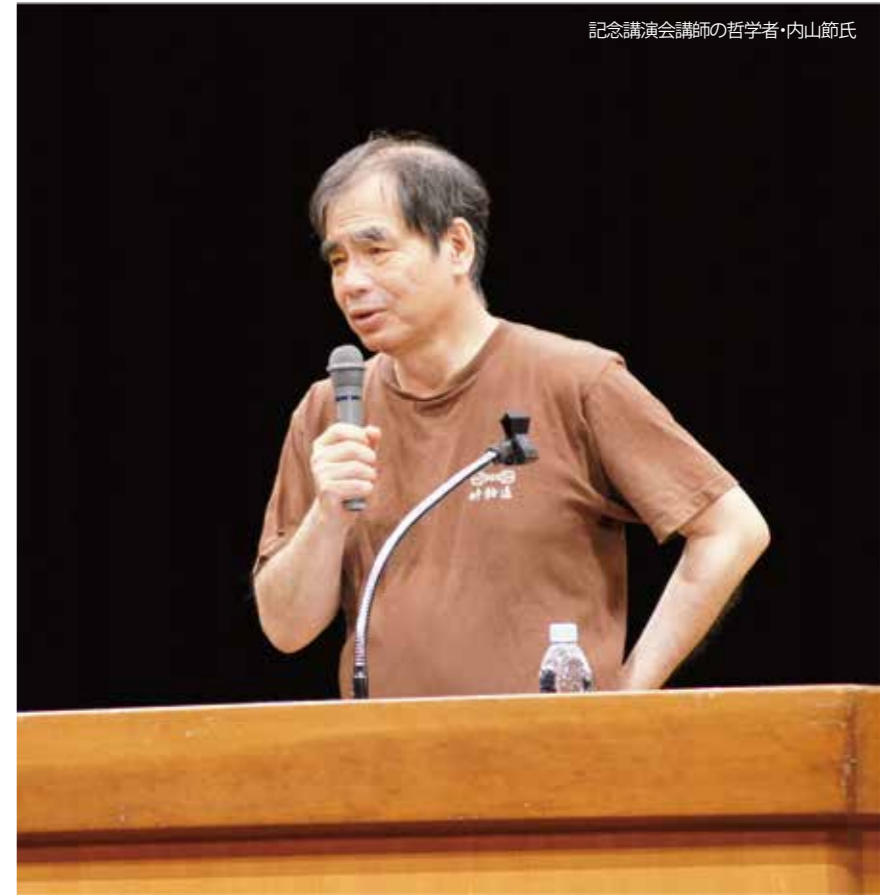
出版記念講演会を開催
5月28日(火)には足助交流館「飯盛座」で、出版を記念した講演会を開催しました。
平日の夜にも関わらず、市内外から約170名の方にご参加いただきました。講師には、哲学者であり、NPO法人森づくりフォーラム代表理事の内山節氏をお招きし、「森林と社会と暮らし」森とともに暮らす豊かさを未来にと題し、ご講演いただきました。

内山氏は、「森は地域の中で人々とともに守っていくためにはいけない場所であり、同時に畏敬の念を持ちながら利用させてもらう場所でもある。それは、森とともにつながりあっている全世界を守ること。森を支えている全つながりの世界を私たちはどう守り、どういう時には使わせてもらうのか、そういうことを検討していくことが森と人間の世界だと思えます」と、印象深い思想をお話しいた

ました。
ガイドブックの取材協力者で、講演会にも出席いただいた森林ボランティアの恵比根美明氏(とよたあす森会・副代表は、「内山先生より、森と人との関わりについて一切(※)の言及がありました。現代の森との関わり方について深い再考を促されたと感じています。私もさらに森との関わり方について考察、実践を加え、少しでも変化成長していきたいと思っています

できました。
その上で、暮らししている人たちにとって一番価値の高い森をつくるには、「どういうつながりを回復するのか」を考えると、林業関係者だけでなく、消費者や森林ボランティアなどとともに再創造する重要性について語られました。また、「森に関わる色々な仕事を明らかにし、人々を誘っていく、すばらしい本ができたと思います」と、出版に寄せて講評いただきました。

す」と、想いを新たにされた様子でした。
ガイドブックは、A4版56ページ、一冊500円。おいでん・さんそんセンター、マンリン書店、tFACEで販売している他、注文販売も受付けています。
出版にあたりご協力いただきました皆さまに、深く感謝いたします。ガイドブックを通じて、景色としての森から、暮らしの中の森に変わるきっかけになれば幸いです。(坂部友隆)
(※)一つの個体は全体のなかであり、個体の中にまた全体があり、個体と全体とは互いに即しているという華厳宗の思想



記念講演会講師の哲学者・内山節氏



作業を楽しむ間伐ボランティアの恵比根美明(えびねよしあき)氏



内山氏の講演の後、山仕事ガイドについて説明する(一社)おいでん・さんそん森林部会の丹羽健司(にわけんじ)氏



平日の夜にも関わらず市内外から約170名が来場した